

- 2. 昭和 56 年度基共研予算原案の説明
- 3. 各部会活動報告
- 4. 著作権について
- 5. その他

高炉内反応部会

第 14 回部会 開催日: 12月 5 日. 出席者: 大森部会長, ほか 26 名.

鋼管・本社にて開催

1. 今後の活動方針, (最終報告書等)について討論が行われた後, 報告討論が行われた, 発表論文, 報告は計 6 件であった.

高温変形部会

第 17 回部会 開催日: 12月12日. 出席者: 田村部会長, ほか 30 名.

1. 講演

(1) 高温高速試験圧延機による回復・再結晶挙動の実験的検討

(2) 316LN の熱間加工性

(3) オーステナイト系およびコエライト系ステンレス鋼の結晶粒度と熱間加工性の関係

(4) 鋼の凝固点直下における脆性について

(5) ステンレス鋼および耐熱鋳鋼の高温変形挙動

2. シンポジウム開催

「高温変形と高温破壊」

昭和 56 年 2 月 17 日 (火) 9:00~17:00

経団連会館 14F 経団連ホール

夏期講座案内

Analysis and Control of Residual Stresses in Weldments

期 日 1981 年 8 月 10~14 日

場 所 Massachusetts Institute of Technology, U.S.A.

主 催 Massachusetts Institute of Technology
 詳細については, 下記宛お問い合わせ下さい.
 Prof. Koichi Masubuchi
 Director of the Summer Session
 Room E19-356, M. I. T.
 Cambridge, MA 02139
 U. S. A.

The Third International Conference on Energy Use Management

1. 期 日: 1981 年 10 月 26~30 日

2. 場 所: Berlin, Germany

3. 主 催: The Interdiscipling Group for Enology, Development and Energy (EDEN)

なお, 詳細は下記までお問合せ下さい.

Craig B. Smith

EDEN

P. O. Box 64369

Los Angeles, California 90064

U. S. A.

正 誤 表

「鉄と鋼」66 (1980) 13, pp. 1781~1790

「コークスのブードワ反応速度におよぼすカリウムの影響」

小林 三郎・大森 康男

ページ	訂正箇所	誤	正
1786	式 (34)	$j_D = k_f P y_{CO_2, f} \cdot Sc^{2/3} / G_M$	$j_D = k_f P y_{CO_2, f} Sc^{2/3} / (G_M R_g T)$